



こんにちは 川上こういちです 日本共産党

連絡先：日本共産党世田谷区議団 世田谷区世田谷4-21-27 ☎ 5432-2791

政府のマイナ保険証、押し付けやめよ

12月2日から、紙の健康保険証の発行が停止されました。利用が進まないマイナ保険証への一本化を、強引に進めるために行った暴挙です。カードリーダーのトラブルは頻発、「今までの保険証は使えるのか」「マイナ保険証は解除できるのか」「資格確認証が届いていない」などの問い合わせが殺到しています。

しかし、マイナンバーカードは任意であり、区民の医療へのアクセスは保障されなければなりません。

区議会でも、受診控えやトラブルを避けるための区の対応を求めました。

区は「コールセンターやホームページで、引き続き、保険診療を受けられる点の周知に努める」と答えました。慌てて、マイナ保険証の登録をする必要はなく、健康保険証は期限が切れるまでそのまま使えます。マイナ保険証を持たない人には、保険証とそっくりな「資格確認証」が、期限が切れる前に発行され、保険証と同じ使い方ができます。

政府の対応はつきはぎだらけです。

窓口で「認証」のトラブルがあれば、健保組合から送られてくる「資格情報のお知らせ」を見せる、スマホでマイナポータル画面を見せる、過去の診療情報を確認する、被保険者資格申立書を書く等の対応が示されています。最も確実な対処法は、今まで通り、紙の保険証の発行を続けることです。皆さんの声で、国の方針を撤回させましょう。



介護職の処遇改善求める区民の陳情

全会一致で趣旨採択

介護の現場は、深刻な人材不足で、ホームヘルパーの求人倍率は約1.5倍。事業所の7割が人材不足です。

全産業平均より月額約7万円低い賃金が主な原因で、さらに介護保険から事業所に支払われる報酬が、今年4

月の改定で引き下げられました。世田谷区でも訪問介護事業所の閉鎖が広がっています。

介護職の賃金アップ、処遇改善を求めて、介護事業所を中心に集められた約3800人の陳情署名が区議会に寄せられました。議会では介護事業者が現場の実情を訴え、全会一致で趣旨採択されました。

区が介護事業所などに給付金

議会の決定を受けて、世田谷区は9月の区議会に高齢者・障害者施設への緊急安定経営事業者支援給付金の補正予算を提案。訪問介護事業所に1事業所88万円、入所・通所系施設に定員一人当たり2万7千円など、高齢者・障害者施設など1600事業所を対象に総額8億7千万円の予算が可決されました。事業所から「助かる」と歓迎されています。区議団は、来年度以降も支援を続けるよう求めています。



福祉緊急対応事業の拡充を

世田谷区は、福祉緊急対応事業等の強化をはかるため、「(仮称)保健福祉特別支援チーム」の新設を検討しています。

福祉緊急対応事業とは、法に基づく福祉サービスに至らない場合や福祉サービスを円滑に利用できない障害者や高齢者に対して、孤立死の防止、介護保険や障害福祉サービス等の公的サービスの円滑な利用につなげ、生活の質の担保と安定した生活の継続をはかるもので、区民生活を守るセーフティネットの制度です。

認知症等で契約能力がないケース、虐待が疑われるケース、介護を拒否するケース、手を付けられないゴミ屋敷、暴力・暴言などハラスメントをするケースなど、いわゆる「困難ケース」への対応や、ひきこもり、社会的孤立、経済的な困難などが背景となる、孤立死が増加している状況で、福祉緊急対応事業の拡充は非常に重要ですが、区の体制は十分です。

「特別支援チーム」には、弁護士、医師などの専門人材をおき、困難事例に対応する保健福祉センターを中心とした職員の知見を広げ、セーフティネットへのバックアップ体制

の強化を図るとしています。

私は区議会質問で、専門人材のそれぞれの専門性だけでなく、困難ケースを解決するのにふさわしい、現場での知見、ノウハウが必要ではないかと見解を問いました。

区は「チームには専門性に加えて、現場の知見やノウハウが必要である：医療、法律、社会福祉、介護技術などの各種専門職や区職員など、現場職員への効果的な助言ができる人材構成を検討していく」と答弁しました。

介護指導職の拡充に踏み出せ

現在、「困難ケース」対応の役割を担う介護指導職(公務員ヘルパー)は区内にわずか3名。北沢・烏山地域では不在です。介護指導職の培ってきた現場での経験やノウハウを途絶えさせてはなりません。

区民生活のセーフティネット強化に行政が公的責任を果たすためにも、介護指導職の退職不補充の方針は見直して拡充へ踏み出すこと、欠員状態となっている北沢、烏山両地域に介護指導職の配置を行うべきです。

水害対策急げ

下野毛排水樋門整備を求める

多摩川と丸子川に囲まれている上野毛・野毛地区には、多摩川と下水道の下野毛雨水幹線の合流部に下野毛排水樋門が設置されています。

2019年10月に発生した台風19号で、玉堤地区とともに、上野毛・野毛地区が深刻な浸水被害を受けました。浸水した要因は複合的ですが、多摩川からの逆流を防ぐために、下野毛排水樋門を閉めた際に、住居のある側に降った雨水が多摩川へ排水されなかったことが要因の一つとされています。

この下野毛排水樋門について、雨水を多摩川へ排出するためのポンプゲート及び遠方操作機器の新設が今後実施予定となっています。

私は整備の進捗状況とともに、整備を少しでも早く進めるよう、東京都に要望するべきと求めました。

区は、「現在、都下水道局が下野毛排水樋門へのポンプ施設設置に向け、来年夏までに実施設計の完了を目指していると聞いています」「区として早期整備の実現に向けて要望する」と答弁しました。